

口腔ケア方法が他職種に
周知されているか？
～アンケートを実施して～

稲次整形外科病院

歯科衛生士 ○ 山中 朋子

久保 さゆり、稲次 美樹子、稲次 正敬

【はじめに】

当院は回復期病棟であり多職種で構成されており、看護補助として歯科衛生士が配置されている。

障害を持っても残存機能を生かし在宅で安全安楽な口腔ケアを習得するため、患者個々に適した使用物品がケア方法は不可欠である。

歯科衛生士が提示した方法が他職種に周知されているか調査した。

【目的】

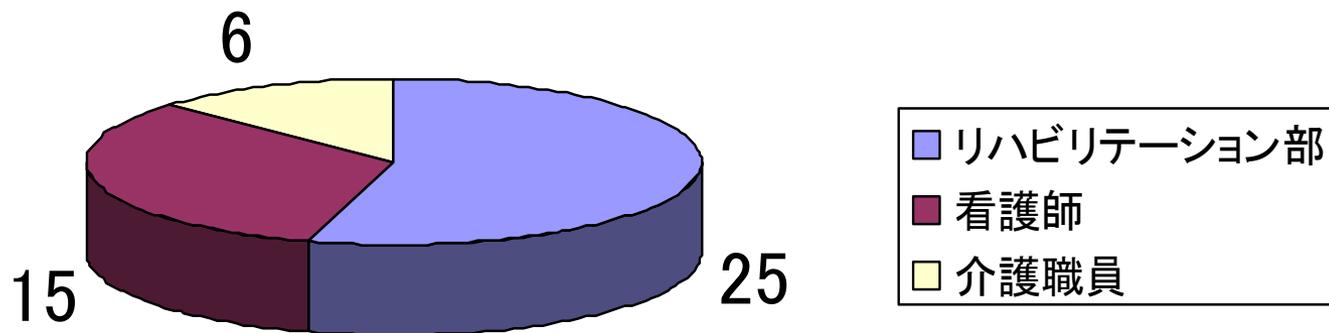
口腔ケア自立にはリハビリとの連携が不可欠であるが、記録に残すカンファレンスとなると会議であった。ステーション内やベッドサイド・洗面台での話し合いは行えているのに記録がなかった。



そこでウォーキングカンファを導入し、他職種とのカンファレンスを記載するようにした。

導入後部署間の連携や伝達が出来ているか、他職種と会話しやすい状況にあるかななどの現状を把握するためにアンケートを行った

【対象と方法】



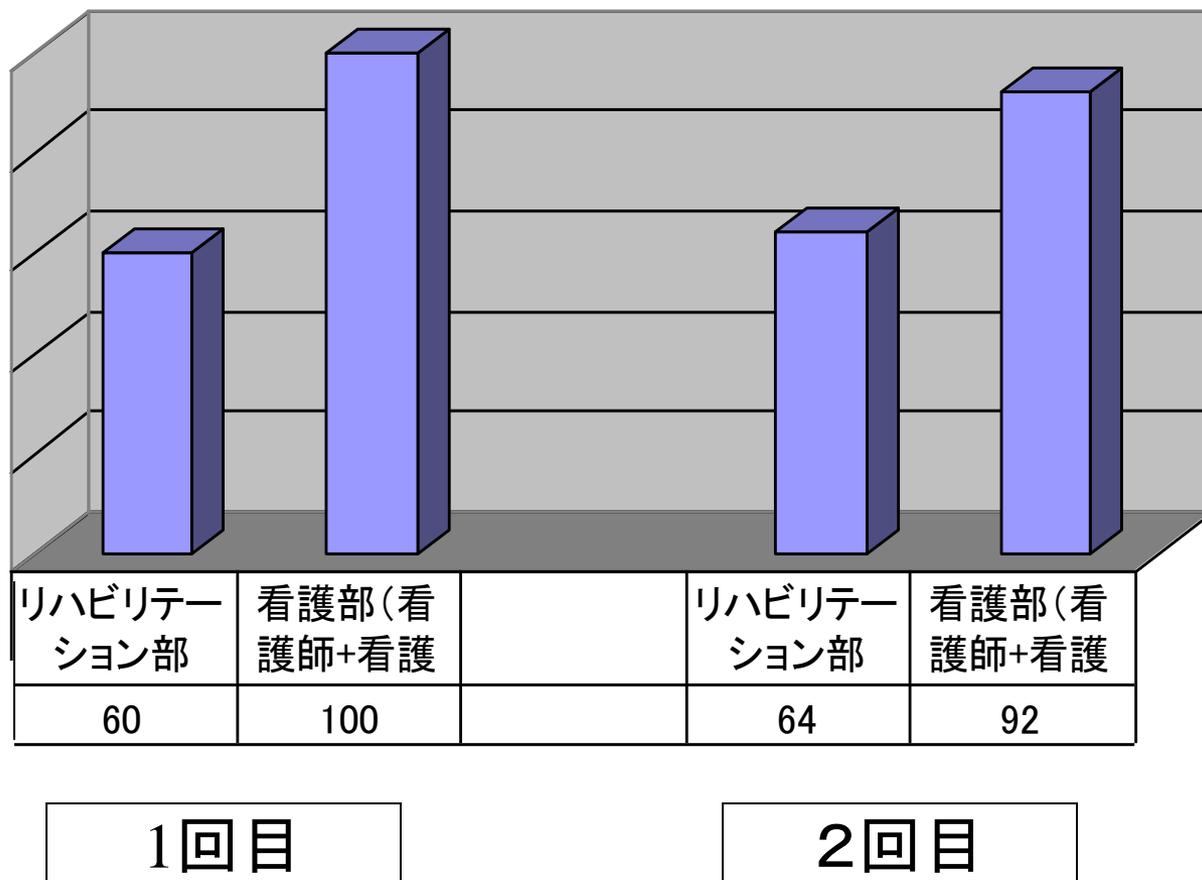
期間

1回目：平成23年 5月

2回目：平成23年11月

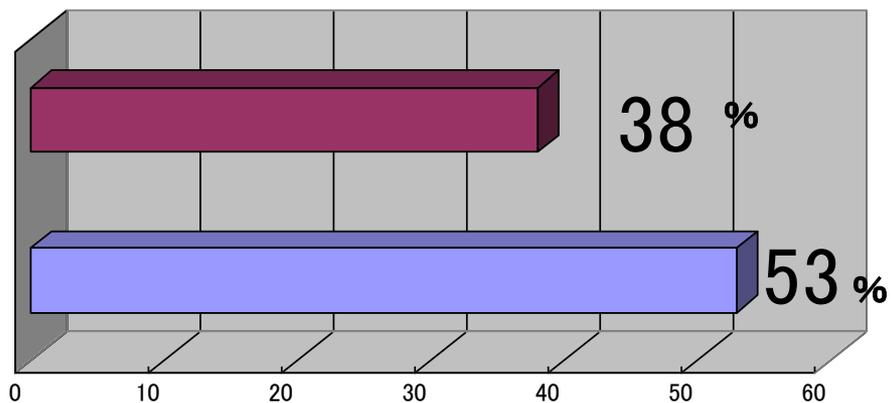
リハビリテーション部・
看護部（看護師・介護職員）
それぞれに連携の現状調査に
関するアンケートを実施

【結果】

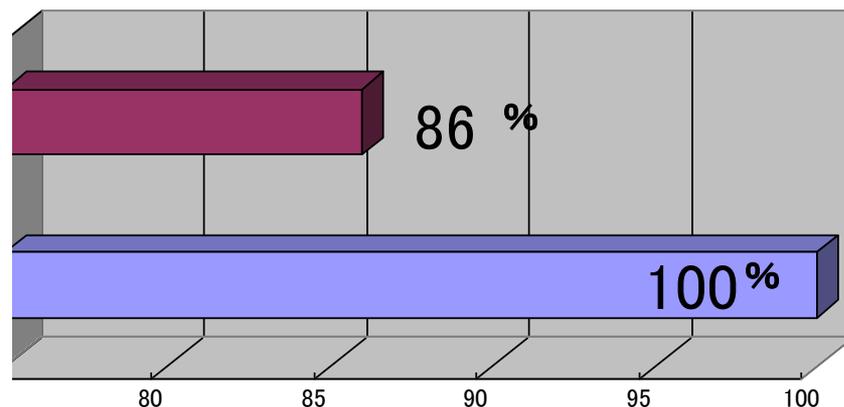


回収率

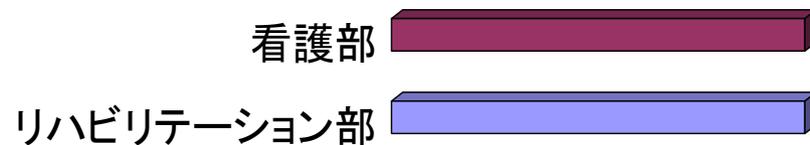
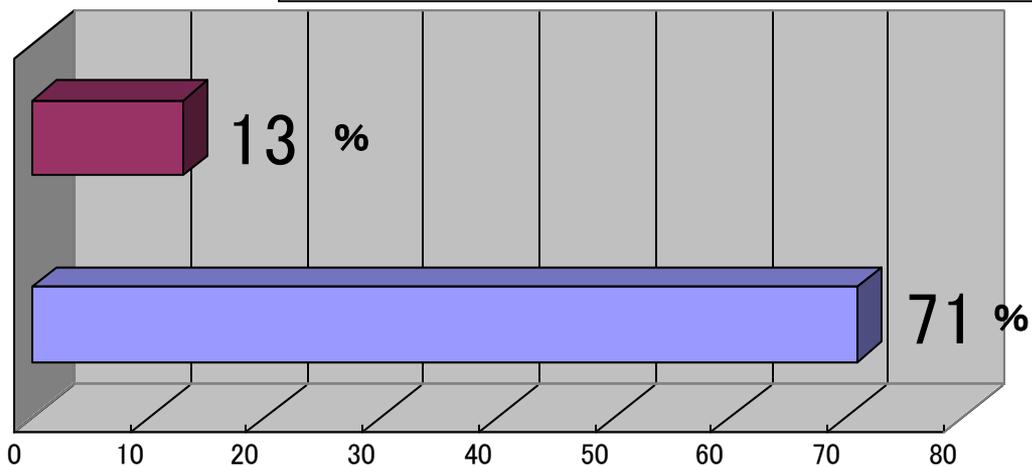
Q1 連携出来ているか？



Q2 ウォーキングカンファを知っているか？



Q3 ウォーキングカンファを使用した事がある？



アンケート結果で、他職種との会話は
しやすい環境ではあるがカルテの記載が
なかったり、部署間の連携・伝達が出来て
いないことが分かった。

【考察】

話し合った職員以外に周知する事が必要であるため、ウォーキングカンファレンスを活用し記録に残していく事を職員間に広めていくよう努め、アンケートも継続して行い意識付けをしていく